

# 令和元年度 奈良県森林技術センター研究成果発表会概要

日時: 令和元年12月6日(金) 13:00～

場所: 奈良県森林技術センター 林業研修館

## 〈主要成果〉

### 1 ツキノワグマの出没と生息状況に関する調査

#### 1-1. 堅果類豊凶調査(H28～30年度)

クマ類の秋期の大量出没には各種堅果類の豊凶が関係するとされており、全国各地で豊凶調査結果に基づく出没予測が行われている。奈良県における堅果類の豊凶を調査し、秋期のツキノワグマの出没状況と比較したところ、ミズナラとブナの豊凶がツキノワグマの出没に関係すると考えられた。

#### 1-2. ツキノワグマの生息数調査 -カメラトラップ調査による- (H28～30年度)

カメラトラップ法により奈良県におけるツキノワグマの生息数を推定することを目的とした。奈良県南部の広葉樹林内にトラップを設置し、自動撮影カメラを用いて動画を撮影した。撮影された胸部の斑紋に基づいて個体識別し、調査地域ごとの識別個体数を得た。生息数の推定については推定方法の検討を要するため、次期研究へ継続して実施する。

### 2 従来型架線システムの作業効率の改善(H29～30年度)

急傾斜の木材搬出について長期的にはタワーヤーダの普及が考えられるが、本県において早急に木材搬出量を増やすには、従来型架線システムの安全性と生産性を向上させて普及して行くことが現実的である。本課題では新たに従来架線に取り入れられた技術の検証を行った。

### 3 集成材の適正接着条件の解明と接着はく離補修技術の開発

#### (H27～30年度)

集成材の製造工程が高速化していることより、適正製造条件の見直しを行った。冬期の積層接着では、圧縮時間および接着時や養生時も雰囲気温度の管理が重要であり、たて継ぎ接着では接着剤塗布量の管理が重要であった。また、建築物等に使用されている集成材に接着はく離が発生したことを想定して、接着はく離が強度に及ぼす影響および補修効果を調べた。接着はく離は曲げ強度を低下させ、補修すると強度は回復した。

## 〈話題提供〉

### ナラ枯れ被害の動向およびあらたな病害虫への注意喚起

奈良県におけるナラ枯れ被害の動向と、今年奈良県で初めて確認されたクビアカツヤカミキリの情報と対処方法について紹介する。

〒635-0133 奈良県高市郡高取町吉備1

奈良県森林技術センター

URL <http://www.nararinshi.pref.nara.jp/>